



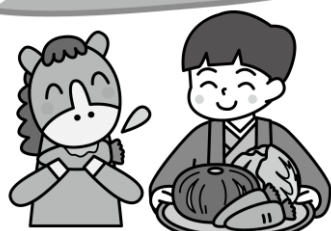
給食だより 1月号

令和8年1月8日
港区立高輪台小学校

あけましておめでとうございます

冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。昔から「一月往ぬる二月逃げる三月去る」といわれてきたように、年度末に向けて月日が流れるのを早く感じる時期です。風邪やインフルエンザも流行していますので、体調管理にはより一層気をつけて、1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

今年（とし）はうま年（うまねん）！



うまのように野菜を
たっぷり食べよう！



箸（はし）をうまく使いこなして
きれいに食べよう！



よく味わってうま味
を感じよう！

お年玉（としだま）はもち（もち）だった！？

お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではな
いでしょうか。さて、子どもたちにとって、お正月の楽しみといえばお年玉。
新年を祝って、大人から子どもへお小遣いを渡す風習です。もともとは、
お正月の「歳神様（としがみさま）（年神様）」にお供えた「もち」を、歳神様からの贈り物と
して分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂（たましい）」を意味します。



1月11日は鏡開き

鏡もちを小さく割ってお汁粉などに入れ、無病息災を願って
食べる行事です。もちを小さくするのに、包丁など刃物を使うの
は武士の「切腹」を連想させるため縁起が悪いとされ、木づちや
手で割ります。また、「割る」ではなく「開く」という縁起の良い言
葉が使われます。



1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

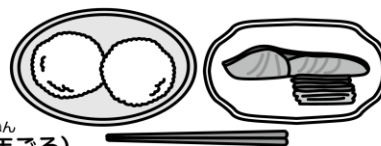
にほん がっ こう きゅうしょく

日本の学校給食のあゆみ

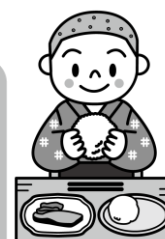
学校給食の始まり

明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされて
います。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や
食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための
方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを
得なくなっていました。

おにぎり
焼き魚
漬物
(明治22年ごろ)



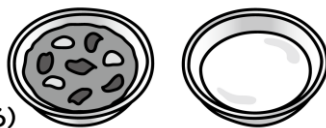
五色ごはん
栄養みそ汁
(大正12年ごろ)



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（ア
ジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月
24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全
国学校給食週間」とすることになりました。

ミルク
トマトシチュー
(昭和22年ごろ)



コッペパン・ミルク
クジラの竜田揚げ
せん切りキャベツ
(昭和25～30年ごろ)



バラエティー豊かな献立内容に

昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活
動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に
導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していききました。

ミートスパゲッティ
牛乳
フレンチサラダ
(昭和40～50年ごろ)



カレーライス
牛乳・塩もみ
ゆで卵
(昭和51年ごろ)



このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが
飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、
大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるように、学校給食は「教材」としての
役割も担っています。